

酒とパソコンと少々ミルク

6次産業化の壁(その3)

成光 昭男

4月中旬に、つくば市まで出張し、GAP関連の実践セミナーを受講してきた。前後泊を含めて3泊4日であり、旅費、受講料、時間の消費は結構な負担なのだが、新しい道を拓くためには必要な自分への投資となるお金と時間だと思っている。5月下旬には、今度は農場トレーニングのため、再度つくば市まで出張する。

新しいことに取り組もうとすると、どうしても壁が現れる。その壁を越えようとする、それなりの取組は避けては通れない。しかし、壁を越えた先には新たな世界が見えてくることを期待したい。

GAPについても、色々ご紹介したいところだが、それは、またの機会に回すとして、今回の6次産業化の壁は電子メールだ。

一般社団法人日本ビジネスメール協会が実施した「ビジネスメール実態調査2015」の調査結果を見ると興味深い。

98%以上の方がビジネスでメールを利用している。これは電話(93%)や面会(82%)を越えている。今やメールはビジネスに欠かせない連絡手段になっているのだろう。

ところが、これだけビジネス上の重要なツールになっているにもかかわらず、85%の人が、勤務する会社でビジネスメールの社員研修は実施されていないと答えている。

そのため、いろいろな「困ったこと」が起こっているようで、取引先とのメールのやり取りの失敗により大事な商談が壊れてしまう可能性もある。

6次産業化でも当然、メールは大事なツールとなる。連携先や取引先、お客様とのコミュニケーションにメールは欠かせないと言っても過言ではないだろう。したがって、好ましいメールの使い方を心がけたいものだ。

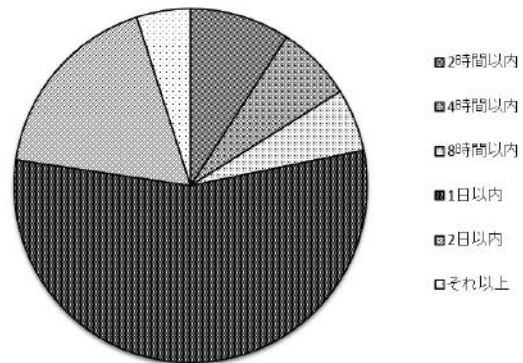
もっとも基本的なことは、メールの確認だ。調査でも98%以上の方が1日1回以上はメールを確認している。ただ、このうち1日1回は2.6%にすぎず、多くの方が1日数回の確認を行っている。70%以上の方が1日5通以上のビジネスメールを受けつつあるので、1日数回の確

認は当然と言えば当然である。

裏返せば、こちらからメールを送った場合、ほとんどの場合、同日中に相手はメールを確認してくれるはずだ。

この「はずだ」が問題で、電話の場合は確実に確認できるが、メールの場合、相手にメールが届いたかどうかは確認できない。そこで、重要となるのが、メールの返信になる。

送信したビジネスメールの返信は、急ぐ場合を除き、いつまでに欲しいか



一般社団法人日本ビジネスメール協会「ビジネスメール実態調査2015」より

多くの人が1日以内の返信を望んでいる。返信がいつまでも届かないと不安になる。

私の経験でも、資料を送信したのだけれども、数日経過しても返信が無く、電話で確認することも少くない。これが商談であれば、返信が無ければ、「関心が無い」と判断され、他の業者との商談に切り替えられてしまう可能性もある。

メールを受信したら、1日以内には返信するように心がけましょう。

とは言え、即断できない案件もあり、返信に数日を要する場合もある。このような場合は、メールの受信確認のメールだけを送り、返信が何時頃になるかを書き添えると良い。

宿泊出張が続く場合は、自宅でメール確認ができないこともある。何らかの対策を取らないといけないが、私の場合、外出時は、パソコンにきたメールはスマホに転送するように設定している。